

地理 松本大学 2025 年度一般選抜 A 一日目 出題の意図

地形、民族、地誌といった分野について、リード文に加えて、地図、図表などの視覚資料を用いて地理全般の理解度を問うことを意図して出題した。教科書に掲載されている基本～標準レベルの事項を問うことに主眼を置き、日ごろから教科書や地図帳を用いることで「因果関係（なぜ）」や「位置（どこで）」を意識して学習しているかを問う設問とした。

第1問は、ラテンアメリカの地誌について、リード文と地図を用いて出題した。地形、気候・土壌、農業、人種・民族、都市といった広範な分野に関する網羅的な理解度を、空欄補充などの選択問題や記述問題で問うた。さらに、メキシコシティの都市問題について、基礎～標準レベルの論述問題を出題した。

第2問は、地形について、リード文を用いて出題した。地名や地形名に関する空欄補充の選択問題に加えて、三角州の種類、災害、植生などに関する記述問題や地図記号を記述する設問も出題し、用語の暗記にとどまらない本質的な理解力を求めた。さらに、大陸別の標高に関する統計問題を出題し、日ごろから地理統計の理解をはかっているかについても問うた。

第3問は、アフリカ北部から地中海沿岸地域について、民族問題に関するリード文と地図を用いて、自然や資源・産業などの多様な分野も加えて出題した。言語・宗教などの民族に関わる知識に加え、地形、海流、漁業、資源、世界遺産など広範な分野に関する理解度を問うた。

地理 松本大学 2025 年度一般選抜 A 二日目 出題の意図

都市、地誌といった分野について、リード文と地図を用いて地理全般の理解度を問うことを意図して出題した。教科書に掲載されている基本～標準レベルの事項を問うことに主眼を置き、日ごろから教科書や地図帳を用いることで「因果関係（なぜ）」や「位置（どこで）」を意識して学習しているかを問う設問とした。

第1問は、北回帰線周辺地域の地誌について、リード文と地図を用いて出題した。地形、気候、農業、都市といった多様な分野に関する網羅的な理解度を、空欄補充などの選択問題や記述問題で問うた。学習が特定の地域に偏らず、広範な地域の理解に努めているか否かで得点に差がつく出題とした。

第2問は、中央アジアの地誌について、リード文と地図を用いて出題した。地形、気候、農業に加え、各国の特徴などに関する空欄補充の選択問題や記述問題が中心であった。さらに、カスピ海に関する正誤判定問題を出題し、用語の暗記にとどまらず、教科書や地図帳を活用することで身につく本質的な理解力を求めた。

第3問は、都市について、リード文を用いた記述問題を中心に出了題した。教科書の太字レベルの語句を中心に出了題し、地道な学習が得点に結びつく設問とした。さらに、政令指定都市について特徴を手掛かりに解答する記述問題を出題することにより、世界だけでなく日本に関する理解度を問うた。

地理 松本大学 2025 年度一般選抜 B 出題の意図

地形、農業、地誌といった分野について、リード文と地図を用いて地理全般の理解度を問うことを意図して出題した。教科書に掲載されている基本～標準レベルの事項を問うことに主眼を置き、日ごろから教科書や地図帳を用いることで「因果関係（なぜ）」や「位置（どこで）」を意識して学習しているかを問う設問とした。

第1問は、地形分野のなかでも砂漠をテーマとして、リード文を用いて出題した。砂漠の分布・成因や砂漠化に関する基礎的な事項を、空欄補充などの選択問題や記述問題で問うた。用語や地名の暗記にとどまらず、砂漠の成因と位置との関係や砂漠化の要因など、本質的な理解を問うことを重視した。

第2問は、農業分野のなかでも小麦と米をテーマとして、リード文を用いて出題した。栽培条件、春小麦・冬小麦、栽培地域、米料理などに関して空欄補充などの選択問題によって問うた。さらに、緑の革命に関する正誤判定問題を出題し、用語の暗記にとどまらない本質的な理解力を求めるとともに、日本の小麦輸入相手国に関する統計問題を出題し、日ごろから地理統計の理解をはかっているかについても問うた。

第3問は、アメリカ合衆国の地誌について、リード文と地図を用いて出題した。地形、気候、農業、都市、領土拡大の歴史といった広範な分野に関する網羅的な理解度を、空欄補充などの選択問題や記述問題で問うた。さらに、ニューオーリンズに関する正誤判定問題や、州別の人種・民族構成に関する統計問題も出題した。

地理 松本大学 2025 年度一般選抜 C 出題の意図

国家、農業、地誌といった分野について、リード文と地図を用いて地理全般の理解度を問うことを意図して出題した。教科書に掲載されている基本～標準レベルの事項を問うことに主眼を置き、日ごろから教科書や地図帳を用いることで「因果関係（なぜ）」や「位置（どこで）」を意識して学習しているかを問う設問とした。

第1問は、国家と国境について、リード文を用いて出題した。主権、排他的経済水域、第二次世界大戦前のアフリカの独立国、国際組織、国境、内陸国、島嶼国などに関して空欄補充などの選択問題や記述問題によって問うた。用語の暗記にとどまらず、国や国境の位置の理解などを問うことを重視した。

第2問は、農業分野のなかでもプランテーション農業をテーマとして、リード文を用いて出題した。原産地、栽培地域や土壌、モノカルチャー経済、フェアトレードなどに関して、空欄補充などの選択問題や記述問題によって問うた。また、油ヤシ（パーム油）に関する正誤判定問題を出題し、用語の暗記にとどまらない本質的な理解力を求めるとともに、コーヒー・パーム油・バナナの国別・地域別生産量に関する統計問題を出題した。さらに、ベトナムでコーヒー生産が増加した理由や、サハラ以南アフリカにおける食料不足の理由について、基礎～標準レベルの論述問題を出題した。

第3問は、パプアニューギニアとオーストラリアの地誌について、リード文と地図を用いて出題した。経緯線、地形、気候、資源、国際組織、都市といった広範な分野に関する網羅的な理解度を、空欄補充などの選択問題や記述問題で問うた。さらに、日本の鉱産資源輸入相手国に関する統計問題を出題し、日ごろから地理統計の理解をはかっているかについても問うた。